

会議録

会議名	令和4年度(2022年度) 第4回 生涯学習審議会	
日時	令和5年(2023年) 2月22日(水) 午後7時00分～	
場所	八王子市生涯学習センター10階第2学習室及びオンライン会議	
出席者氏名	委員	<会場参加>石川 智子委員、上田 幸夫委員、金山 滋美委員、小林 万里子委員、炭谷 晃男委員、三浦 眞一委員 <オンライン参加>阿部 寧子委員、市川 利幸委員、大塚 英生委員、清水 弘美委員、中嶋 昭江委員、野口 武悟委員、山崎 領太郎委員
	事務局	鶴田生涯学習政策課長、倉田放課後児童支援課長、松井学習支援課長、一杉図書館課長、堀内図書館企画調整担当課長、鈴木図書館分館担当課長、田島生涯学習政策課課長補佐、村石図書館課主査、川久保生涯学習政策課主任、堀江生涯学習政策課主任
欠席者氏名	丹間 康仁委員、長谷川 幸代委員	
議題	<ul style="list-style-type: none"> (1) 報告事項1 令和3年度(2021年度)生涯学習関連事業全調査の実施結果について (2) 報告事項2 関東甲信越静社会教育研究大会について (3) 報告事項3 東京都市町村社会教育委員連絡協議会関連行事について (4) 報告事項4 令和5年二十歳を祝う会実施結果について (5) 報告事項5 令和4年度(2022年度)「図書館サービス満足度調査」の実施結果について (6) 報告事項6 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画について (7) 報告事項7 市民センター図書館の休館日について (8) その他 	
公開・非公開の別	「公開」	
非公開理由		
傍聴人の数	「なし」	

<p>配 付 資 料 名</p>	<p>報告資料1—① 令和3年度(2021年度)生涯学習関連事業全調査の実施結果について</p> <p>報告資料1—② 統計グラフ</p> <p>報告資料1(参考) 調査票のひな形</p> <p>報告資料2 関東甲信越静社会教育研究大会について</p> <p>報告資料3—① 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会</p> <p>報告資料3—② 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会</p> <p>報告資料3—③ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会</p> <p>報告資料4 令和5年二十歳を祝う会実施結果について</p> <p>報告資料5—① 令和4年度(2022年度)「図書館サービス満足度調査」の実施結果について</p> <p>報告資料5—② 図書館サービス アンケート調査</p> <p>報告資料5—③ 令和4年度(2022年度)図書館サービス満足度調査【1】「重要度・満足度」結果</p> <p>報告資料5—④ 令和4年度(2022年度)図書館サービス満足度調査【2】「アンケート」結果</p> <p>報告資料5—⑤ 令和4年度(2022年度)図書館サービス満足度調査【3】「アンケート自由記述欄」結果</p> <p>報告資料5—⑥ 図書館サービスアンケート調査結果概要</p> <p>報告資料6—① 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画(概要版)</p> <p>報告資料6—② 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画</p> <p>報告資料6—③ 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画(体系)</p> <p>報告資料7 市民センター図書館の休館日について</p> <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会における関連事項について ・「八王子の八冊」 ・第2回「本のPOPコンテスト」の実施結果について ・スマートフォンによる利用者カード表示サービスの開始について
<p>会 議 の 内 容</p>	<p>(会長)ただ今より、令和4年度、第4回生涯学習審議会を開催させていただきます。新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、対面とオンラインを併用した形でのハイブリッド開催とさせていただきます。</p>

発言の際は挙手をお願い致します。よろしくお願いいたします。まず初めに本日の出席委員の確認でございます。会場に出席された方が6名、オンラインでの出席の方は7名、合計13名のご出席ということで過半数を超えていますので、本日の審議会は有効に成立することを報告させていただきます。会議及び会議録の公開については、「八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針」に基づき、原則、公開となっておりますので、本日の会議につきましても、公開とします。傍聴の方がいらっしゃいましたら入室を許可しますが、本日、傍聴人の方はいらっしゃいません。では、次第に従い、2の「会議」に入ります。

まず、(1) 報告事項1 令和3年度(2021年度)生涯学習関連事業全調査の実施結果について です。これについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 報告事項1 「令和3年度 生涯学習関連事業全調査の実施結果」について、ご説明いたします。資料1—①をご覧ください。

まず、本調査の概要ですが、令和3年度に本市で実施された、生涯学習に関連するすべての事業の実施状況の調査を行ったものです。昨年7月～10月にかけて、生涯学習プランに掲載している128事業については、生涯学習関連事業評価として、当審議会でご審議いただき、評価を付していただきました。今回は、評価を伴わない実施状況の調査として、生涯学習プランに掲載のない事業も含めた全件調査でございます。全505件の事業が該当となりました。本市では、生涯学習スポーツ部や教育委員会部局だけでなく、市長部局も含め市全体で、生涯学習に関する事業を多数行っておりますが、他の所管がどのような事業を実施しているか把握しづらいという現状がありました。本調査では、生涯学習関連事業を「見える化」し現状を把握すること、また、事業を関連付け、分野横断的な取組に活用することで、今後の生涯学習の振興を効果的に推進することを目的としています。

具体的には、事業間の連携として、例えばボランティアの養成講座を受講した方を他所管に接続し実際に活動の場を提供する。また、類似テーマの講座イベントをPRすることに活用する。他に、全庁に公開しオープンデータ化することで産官学連携の契機とする。施策の分析により、今後の事業展開を検討するためのデータとするなど、全庁的に情報を共有し、データを効果的に活用していくことを考えております。

資料1—②をご覧ください。今回の調査で該当している505件の事業を、種類や分野、対象者など、6つの項目ごとに集計し、グラフ化したものですのでご確認ください。また、次のページには資料1(参考)として調査票の1ページ目をサンプルとして添付しております。今回505件と事業数が多く、ページ数が多くなってしまいうことから全事業の一覧は印刷しておりません。後日、メールにてExcelデータでお送りしますので、よろしければご覧ください。

(会長) ありがとうございます。前回は皆さん方に御議論いただいた部分ではありますが、大変綺麗に整理をしていただきまして、ありがとうございます。ただいま事務局の説明につきまして、ご意見やご質問がございますでしょうか。

(委員) 令和2年度と比べると、令和3年度はコロナウイルス感染症の状況は良くなってきているので、実施した事業が増えていると思いますが、比較すると総数でどのくらいの増になりますか。

(生涯学習政策課長) ここ数年、悉皆調査は行っていなかったもので、全事業の前年度比較が出来ませんでした。全庁的な取組の把握が出来ていなかったという弱みでありました。本市の基本構想基本計画「未来デザイン 2040」が、この春、新たに作成され、その中でも市民との共創がテーマになっております。そういった中で政策に横串を刺した実施をするために、事業が見えないのはよくないということで、今回実施しました。今後、事業の比較、「見える化」するための調査となります。

(会長) 今後は比較ができるようになるという理解でよろしいでしょうか。

(生涯学習政策課長) はい。

(委員) 令和2年度は、最初にコロナの感染が広がった年で、施設を休館にしたり、事業がとて減った年で、比較対照してもあまり意味が無い状況かもしれません。令和3年度から調査しているということであれば、了解しました。

(委員) この調査をまとめて、どのくらい時間が経っているか分かりませんが、生涯学習政策課としては、どのような感想をお持ちですか。

(生涯学習政策課長) 「分野」のグラフを見ていただきますと、「趣味的なもの」「教養的なもの」などの比率が確認いただけます。「情報端末・インターネットに関するもの」の比率は少ないですが、これから八王子市がDXなどを推進していくに際して、市民の方々の情報リテラシーを向上する、あるいは単にICT機器を入れるだけでなく、それにより暮らしが変わるというDX、これは市の基本構想・基本計画でも掲げているところですので、こういったところに関しては一つの課題かと思っております。

(会長) ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。

(生涯学習政策課長) この悉皆調査をやろうと旗振りをしたのは、私です。

今までの関連事業評価の中でも、ボランティアを育成してもその接続先がないとか、そういった部分がありました。これから人口減少の局面を迎える2040年に向けて人口が減るのは避けられないとしても、生涯学習活動が盛んになることで活動人口が多いまちを作ること。これは努力次第でできる。そのために、自分の自治体が何をやっているかわからないことは避けたいということで、これから毎年この悉皆調査は更新して行きたいと考えております。データに関しては、これから委員の皆様にも毎年提供してまいります。令和6年度には令和7年からの新たなプランの策定作業もありますので、こうした資料などもご覧いただきながら議論を深めていただければと思います。もうこれはメッセージになってしまいますが、よろしく願いいたします。

(会長) ありがとうございます。市民同士の繋がり、それから市民が様々な事業に対する繋がりを持っていただくというところを重点的に考えていかれることと思います。ぜひよろしく願いいたします。それでは先に進めさせていただきます。「(2) 報告事項2 関東甲信越静社会教育研究大会について」と「(3) 報告事項3 東京都市町村社会教育委員連絡協議会関連行事」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(生涯学習政策課長) 本日は、資料2「関東甲信越静社会教育研究大会」についてご説明させていただきます。

はじめに、「東京都市町村社会教育委員連絡協議会」という組織ですが、略称を「都市社連協」といい、東京の26市と3町の社会教育委員または生涯学習審議会委員で構成する団体で、八王子市は当審議会委員が参加しております。市をまたいだ委員同士の連携と、生涯学習の振興を図ることを目的としており、毎年研修会や交流大会が実施されております。関東甲信越静社会教育研究大会は、その広域レベルの大会となります。この研究大会が令和4年11月10日、山梨県甲府市で開催されました。当審議会の委員の皆様にもご参加いただき、ありがとうございました。内容につきましては、私からよりも実際に参加した委員の皆様にご話していただいたほうがいいと思いますので、このあとお願いいたします。なお、資料の3-①から3-③は、今回書面での報告とさせていただきます。

(会長) ただいま事務局からご説明いただきました。ご意見ご質問がございましたらお願いします。

それでは、今回関東甲信越静社会教育研究大会にご参加をいただきました皆様のご感想、意見をお伺いします。

(委員) 初めて参加させていただきましたが、他の自治体の話を聞くということは勉強になると思いました。一番印象に残ったことは、山梨県の教育委

員会が社会教育委員の手引きというのを作っていて、面白いことが書いてありました。一つは、社会教育委員の持つべき姿勢について記述がありました。これからの社会、近年期待されるのは「行動する社会教育委員」であるということ。考えて意見を言うだけでなく、自ら動きましょうということが書いてありました。それから分科会は、「家庭教育でつながりづくり」という分科会に参加させていただきました。私も家庭教育関わっていますので、参考になる取組がたくさんありましたが、八王子市の取組も負けていないと思った次第です。家庭教育に関して言うと、特別支援教育に関することも取り組まないといけないと思いますので、質問させていただきましたが、それに取り組んでいるところは、その場にはないというお話だったので、それも視点として、これからも持ち続けられないのかなと思いながら過ごしました。一つお願いですが、大会事務局で見学コースが用意されていましたが、やはり社会教育委員として皆さん参加されているので、社会教育施設の見学がしたいと思いました。その地の社会教育がどのように運営されているのかを知りたいのですが、そのようなコースがなかったのは残念でした。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 私も初めて参加させていただきました。2日目は第4分科会に参加し、それがとても印象に残ったので、皆さんと共有したいと思います。テーマは「人生100年時代の学びのあり方。豊かな人生を送るための生涯学習のすすめ」というサブタイトルがついていました。そこでは、桑原静香さんという、さいたま市の社会教育委員で、合同会社ババラボグループを作られた代表の方の講演がありました。“ババ”は、おばあちゃんの“ばば”で、裁縫で高齢者が作品を作って売る活動です。高齢者のサロン活動のような活動は各地でたくさんあると思いますが、ここは単にお茶を飲んで楽しむだけではなく、働くということにフォーカスしています。定年後に自分の好きなことや好きなものを活かせる仕事がないという課題があったそうです。定年後にシニアが活躍できる場作りとして、楽しむだけでなく何か自分の役割があり、さらに報酬があることということ。それがやはり生きがいとなり、自分でも社会に役に立つということが体感できるということが大切である、ということはこの事例で実感しました。高齢者のための場作りではありますが、来るもの拒まずというスタンスで運営されていて、多世代に広がり大きな場となっている、という場づくりのヒントがありました。例えば、孫や夫と一緒に出勤することが可能で、やがてその孫の30代や40代の両親も集まって来る。というように、場づくりが広がっていく様子というのが、参考になりました。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 私は1日目にオンラインで参加させていただきました。シンポジウムが面白く、長池さんという方が食器のリサイクル・リユースをしながら、配食サービスするという取組の話をしていました。配食サービスでは、食器自体も使い捨てになってしまいもったいないということで、それを循環させるような形で、食べ物を通じて人を繋げていく活動です。また、「かえる舎」では、中高生などを対象にしています。この会社のシンボル自体がカエルですが、それは中高生がそこで大人と関わって、将来はまた自分たちの故郷に戻って帰る（カエル）。そういったことも込めています。これも NPO 法人です。青少年を育てて、いつかは自分たちのところに戻ってくる。そういう青年を育てていこうという話でした。とても面白い話でした。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 1日目はオンラインで、2日目の分科会は現地で参加しました。1日目の記念講演が、元ソフトボール日本代表監督の宇津木さんのお話で、努力は裏切らないという話をされていて、大人が聞いているより、将来をいろいろと考えている子どもたちに聞かせたい内容だと思いました。もし機会があれば八王子で、小中高大学生の子ども達にぜひ、宇津木さんと呼んで公演をやっていただきたいと思いました。シンポジウムは、2つ目の長池さんの、「一つの活動がいろんな人を繋いで、社会全体を良くしていく」というつながりの話でした。私たちも個々で活動されている方はたくさんいて、その点が線になり、面になって、社会をつなげていけたらいいなと聞いていて思いました。分科会は第2分科会の「つながりづくり」の話でした。私も NPO で活動していますが、つながりを作っていくのに、先代の人たちが作ってきたものを、また若い世代につなげていくことが課題で、次に繋げて行くのにどうしたらいいかという話が出ていていました。八王子市でも皆さん様々な活動をされて、線から面へと繋げていただいているその後の活動が、私たちの世代を超えて、またその先の若い世代につながって八王子がより良くなっていくと良いなと聞いて思いました。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 私もオンラインで参加させていただきました。記念講演について、さすが宇津木さんは、やはりリーダーの中のリーダーだと感じ、とてもお話が面白く、ぜひ本当に八王子でチャンスがあれば、お話を聞きたいと思いました。せっかく機会をいただきましたので、オンラインでの参加の方で覗かせていただきました。

(会長) ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いいたします。

(委員) 別のところでも話したかもしれませんが、今回のテーマでとても面白いなと思ったのは、社会的包摂とって、実は厚労省が言っていることで、「人々が繋がって地域の高齢者や障害のある方を温かく見守りましょう」というものです。それと、社会教育については、文科省ですが、こういった省庁では政策はあがるが、現場では繋がらなければいけない問題である、そういう問題意識を今回の山梨大会が持っているというところに、とても感銘を受けました。厚生省、文科省がやっているものはその仕組みで進める、両者の関係は現場が繋いでいかなければいけない。その旗振り役を基礎自治体が行う。国が縦割りになって、基礎自治体まで縦割りにならず住民に下ろすときには、ひとまとめにしたパッケージにするような仕組みが、八王子市で必要だと思いました。

(会長) 今後の課題でしょうね。今までもやってこられたわけですけどね。さらに推し進めていただければありがたいと思います。続きまして、「(3) 報告事項4 令和5年二十歳を祝う会の実施結果」につきまして、事務局よりご説明お願いいたします。

(学習支援課長) 「令和5年二十歳を祝う会の実施結果」についてご報告いたします。資料は4になります。式典の名称を「成人式」から「二十歳を祝う会」に改め、今回が初めての開催となりました。当日はお忙しい中、会長にもご臨席賜り、誠にありがとうございました。それでは資料に従って報告させていただきます。日時は、令和5年1月9日(月) 成人の日の祝日でございます。会場は J:com ホール八王子です。今回の式典開催にあたり、新型コロナウイルスへの基本的な感染防止策を講じた上の開催とし、式典については、第1回から第3回の分散開催とするとともに各回の会場の定員数の6割程度と致しました。また、予め収録した映像を会場のスクリーンに投影するなど、式典の時間短縮を図るとともに、会場で参加できない方のために、当日10時からYouTubeで配信を実施いたしました。このYouTube動画については、芸能人の方からもメッセージをいただいた関係上、期間限定とし、現在は公開しておりませんが、1月末までの公開期間中、1600回程度の再生回数がありました。次に式典の内容についてですが、二十歳を祝う会実行委員長による開会の辞から始まり、共立女子第二中学校高等学校コーラス部による国歌市歌斉唱、続きまして、石森市長による主催者式辞、来賓祝辞は吉本八王子市議会議長、萩生田光一衆議院議員、小田原潔衆議院議員より頂戴いたしました。また、八王子出身のタレント、ローランドさんからは、20歳の若者に向けて「人に笑われるくらい大きな夢を持ってほしい」と力強い応援ビデオメッセージをいただきました。アトラクションでは帝京大学書道部による書道パフォーマンスが行われました。書道作品については、1月21日から1月31日まで、クリエイトホールエントランスで展示し、来館者の方に非常に好評でした。最後は実行委員による閉会の辞で終了といたしました。

た。次に参加者数ですが、3,557名と例年と変わらない出席がありました。なお、対象者は7,386名で、出席率では48.16%です。次に実施体制ですが、公募による実行委員10名がスローガンやプログラムの作成のほか、当日の司会進行等を行いました。フォトスポットについてですが、20歳になった若者が晴れ着を着て、記念・思い出となるよう写真を撮影できるフォトスポットを二つの施設に設置いたしました。一つは、会場の同じ建物内の3階にある桑都日本遺産センター八王子博物館、もう一つは、八王子駅北口に令和4年11月にオープンした桑都テラスです。こちらでは、フォトスポットやプロカメラマンによる記念撮影、その敷地内の店舗のファーストフードのプレゼントが行われ、多くの方が来場されたとの報告を受けております。資料の最後に当日の様子を掲載しております。報告は以上です。

(会長) 1回あたりの人数を減らすために、3回開催されたということで職員の皆様はご苦労様でした。これについてご質問やご意見はございますでしょうか。

(委員) 今から20年ほど前、社会教育に関わる委員をやっており、そのころは毎年成人式に参加していました。当時は、テレビで報道されるような混乱があり、お酒を飲んだ青年が騒いで、式の進行を妨げる状況で、当時の黒須市長が自ら舞台上に上がって静止した場面がありました。今年はどうでしたか。

(学習支援課課長) 今年の開催につきましては、J:comホール八王子を会場とし、とちのきデッキ上で若者が集まっているという状況でしたが、幸いなことに大きなトラブルはなく、大騒ぎする若者も、トラブル起こすようなことはございませんでした。

(会長) テレビ報道されている市と比べると、八王子の若者はおとなしく感じます。式典中も整然とされていました。特に女性のほとんど着物でお見えになりますから、そのあたりも男性陣に影響があるのかもしれないですね。男性陣も心得ていて参加されていたようですので大変粛々と進められたという印象でございました。コロナの関係もあり、1回の人数を減らすために3回に分けての実施は大変なことと思います。敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

(委員) 二十歳を祝う会について、こういう形でやりましようとして以前話をしましたが、本当の新成人である18歳に、どのように意識づけしていただけるのか、18歳に対してのアプローチは必要であると感じています。

(会長) ありがとうございます。成人年齢が変わりましたから、それとの兼

ね合いをどうしていくのかと言うのがこれからの、大きな課題になりまると
思います。ぜひ機会がありましたら議論をさせていただければと思います。
それでは先に進めさせていただきます。

「(5) 報告事項5 令和4年度2022年度の図書館サービス満足度調査の実
施結果」につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局) それでは、令和4年度「図書館サービス満足度調査」の実施結果
について、ご説明いたします。まず調査の概要ですが、令和4年11月21日
から12月28日までの1カ月程度、来館者へのアンケート配布及び図書館ホ
ームページからの電子申請で、1,180件の回答を得ました。また、調査票に
ついては資料5-②のとおりです。設問は大きく分けまして図書館サービスの
重要度・満足度についてのパートと、利用動向や今後の方向性についての
パートがあります。まず重要度・満足度についてです。A3の資料5-③ 図
書館サービス満足度調査【1】をご覧ください。各館及びインターネットで
得られた回答の平均値を表にしています。1から4の数値の中で2.5を中央
値とし、これを下回ると「重要ではない」または「不満」に寄った数値とい
うことになりますが、今回、下回った数値はありませんでした。

重要度については、やはり①「図書館資料の充実」が最も高い数値が出てい
るところです。また満足度については、インターネット回答の部分が令和3
年度に比べて全体的に満足度が低く出ている中で、②「ホームページの見や
すさ、検索のしやすさ」について2.51とかなり改善を要する数値が出てい
ます。回答者のボリュームゾーンは40代と比較的若い世代であり、ここの
満足度を上げていくことが長期的な図書館利用者の育成に重要な部分と考
えますので、ホームページ等については可能な範囲での改善を行いつつ、令
和6年度予定のシステム更新においては、利用者の皆様に使いやすいと感じ
ていただけるホームページを目指して参ります。

続いて利用動向です。資料5-④ 図書館サービス満足度調査【2】の裏
面からご覧ください。今回の調査で、回答者は60代以上の方が半数を占め
ており、6割が女性です。実際の利用データからは60代の男性の方や40代
の子育て世代の方たちの利用が同程度に多いことがわかっておりますので、
一定の傾向があることを踏まえてデータをご覧ください。設問2の図書館の
利用についてはおよそ3割が曜日など特に決まっていないと回答しており、
個別の曜日を挙げている方も3日以上挙げている方が7割程度で、皆さん
が自由な時間に図書館で過ごされている様子が伺えます。

また、設問3の非来館型サービスの利用については、6割以上の方が「ホ
ームページからの予約・検索」を行っていることがわかります。70代以上の
回答に限定しても4割以上の方が「利用する」と回答していますので、イン
ターネットが図書館利用者にとっても身近なものであることがわかります。
ただし電子書籍など個別のサービスになりますと「知ってはいるけれども利
用しない」との回答が半数を占めます。回答者が図書館に来館している方で

あることから、紙の書籍をより好まれている傾向はあると思われますが、非来館型サービスやデジタルサービスは図書館との距離を縮めてくれるサービスであり、例えば字の大きさを変更できたり、読み上げ機能があったりと、ご年配の方にこそ便利なサービスでもありますので、より多くの方にご利用いただけるよう、初心者向け講座や体験会など最初の一步のハードルを下げる取組を今後も続けていきたいと考えております。

最後に、設問4の特に力を入れてほしいサービスについてですが、重要度の項目でもあった通り、「5 本・雑誌の充実」が特に選択されています。それを除きますと、「7 生活や趣味、仕事や勉強の参考になる情報の充実」「9 高齢の方や障害のある方をはじめ誰もが読書を楽しめる環境づくり」と続きます。資料5-①の裏面をご覧ください。回答を世代別にまとめますと、20代以下や30-40代など若い世代からは、「2 子どもが楽しく過ごせる環境づくり」や「4 自由に勉強できるスペースの充実」への要望が上がっているところ입니다。この後、「第4次読書のまち八王子推進計画に基づく次年度以降の事業実施計画について」ご報告する予定ですが、資料5-⑤にある率直なご意見なども踏まえ、広い世代の皆様の意向をバランスよくくみ取りつつ事業を実施して参ります。

本結果については八王子市図書館ホームページに公開するほか、資料5-⑥の概要をまとめたポスターを各館に掲示し、利用者へのフィードバックを行うとともに、各館の業務改善、サービスの質の向上に活かして参ります。

(会長) ありがとうございます。図書館サービスということですが、市民にとりましては大変重要な問題でございますので、ご意見・ご質問がありましたらお伺いしたいと思います。

(委員) 資料5-⑤について。よくこのようなアンケートでは、1人の意見が紙面に出ると「こういう感想があるのか」と思い、人数を見ると回答しているのは1~2人というものがある。しかし読む側にとっては、その意見を重く受け止め、そういう意見が多いのかなと思うことがあります。この資料は、件数が書いてありませんが、どのように受け止めればいいでしょうか。

(事務局) こちらは自由記述ということで、回答していただいた方の件数はまだ数えていないので、またお調べして回答したいと思います。(別紙により回答) 全体の声というわけではないのですが、書いていただいた方の声を大事にして、参考にして行きたいと思っております。

(会長) 今のところまだ書いていただいた意見を羅列した形ということの理解でよろしいですか。今後内容を精査されると思いますが、その上で時間がありませんでしたら、ご報告いただければと思います。

(委員) アンケートで皆さんの望まれているもので1番多かったのが、本と雑誌の充実ということですが、例えば今評判になっているものや賞を受賞したものなど、旬の本は読みたい方が大勢いると思います。予約をしても300人程が予約待ちしている状況もあります。こういった旬の本は、ある程度の冊数が必要ではないかと思いますが、図書館の方ではどうされていますか。基準がありますか。

(図書館課長) リクエストの多い本について、選書担当で、予約数に対する購入冊数の基準を設けています。待ち時間は長くなってしまいうこともありますが、あまり多く購入すると、あとで余ってしまうこともありますので、お待ちいただくことにご理解をお願いしている部分もございます。

(委員) 一応基準は設けているのですか。基準を聞いてよろしいですか。

(図書館課長) 今すぐに正確にお答え出来ないのですが、後日でもよろしいですか。基準自体は設けています。(別紙により回答)

(委員) わかりました。ありがとうございます。

(会長) 一定の枠があり、それに基づいて購入されているということですね。冊数に関してはどれがベストかは難しい所ですね。できるだけ市民の方の読書力意欲を高めるような形で揃えていただければありがたいと思います。他にご意見ご質問はございますでしょうか。

(副会長) アンケートを見ていると、電子書籍や電子雑誌オーディオブックについて、知っているが使ったことはない方が5割ですが、今後使っていただくようにどのように働きかけるのか、図書館としてお考えがあれば教えてください。

(図書館課長)
生涯学習センター図書館では、高齢者などにスマートフォン等で図書館の機能としての電子書籍を見ていただく講座などを実施しております。そういったものを広げて、簡単に利用できることの周知やPRをしていきたいと思えます。

(会長) IT関係を活用した本に関しては、裾野の広がりがもう少し必要かと思いますが、一方でそれを促して行くということも今後必要だろうと思えます。それについてご意見がございましたでしょうか。

(委員) やはり今後は伸びていくものだと思います。そのためには体験して

いただくのが1番だと思います。初期のテレビの普及のように街頭テレビのようにやるわけにはいかないですが、ご案内して体験していただくという機会として、教室や講座だけでなく“どうぞ触ってください”と常設の所を設けたり、職員がついて使い方を教えるなどして、普及していくことが、今後の図書館の1つ、大きな役割を担っているのではないかと思います。

(会長) ありがとうございます。図書館まつりや生涯学習フェスティバルなどでこれから普及をすることは必要かと思います。年配の方が使うという意見が先ほど出ていましたが、若い方のほうが素直に受けて使ってらっしゃるというケースが多いと思います。若い世代の広がりというのを、ご年配の方だけでなく、一つの課題にさせていただければありがたいと思います。

(委員) アンケートの自由記述で、遅延者のフォローや罰則を厳しくしてほしいという記述があります。私も本を借りたい時に、「一ヶ月ほど返ってきていません。何回も連絡はしています。」ということを言われます。罰則というのは厳しいかもしれませんが、例えば未返却の本がある利用者が新たに本を借りようとした時に貸出しないなど、罰則に関して、具体的な話し合いはされたことはありますか。

(図書館課長) 一か月延滞されている方には、それ以降の貸出ができないようにはしておりますが、期間などについては、今後また考えていきたいと思っています。

(会長) 八王子市の場合は、図書館だけでなく、様々な場所で返却できるようになっておりますね。そのPRをしっかり行うことも重要なことだと思います。

(委員) 電子書籍に関して、今小中学生はタブレットを持っています。春休みなどの長期休暇はタブレットを持ち帰ることもあると思いますが、インターネットにアクセスができるのでしょうか。アクセスが可能であれば、図書館に出向かなくても電子書籍なら読めるという子どもたちもいると思いますので一度ご確認ください。インターネット接続ができるのであれば、八王子市の図書館サイトにアクセスできるようにできないかと思います。

(図書館課長) 生涯学習関連事業評価の際に、委員から「電子書籍について小中学校との連携」について、ご意見いただいたことを踏まえ、また取り入れやすい電子書籍の読み放題パックなどが出てきたというようなこともありまして、今システムの改修を行っています。来年度早めに、小中学生がGIGAスクール端末で電子書籍を読めるよう準備をしているところです。

(会長) それは学校教育部との調整は必要ですか。

(図書館課長) 学校教育部とともに進めているところです。

(委員) ぜひ大々的に宣伝をしていただければと思います。ありがとうございます。もう一つ、先日、中央大学との共同研究の結果を配布いただきましたが、それとこのアンケートはどのような関係ですか。

(図書館企画調整担当課長) 図書館との共同研究で使用したアンケートは、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、今後の図書館についてどうすべきか考えたときに、図書館を利用する方、しない方を含め、皆さんにアンケートを取らせていただいたものを元に、意向などを聞かせていただいたものです。今回のアンケートは、図書館を利用されている方を対象に、サービスがどうかということをお聞きしたものです。

(会長) 時期も異なりますね。今後は中央大学などとの共同は考えていますか。

(図書館企画調整担当課長) 中央大学さんと5年間の共同研究の協定を締結しておりまして、一定の期間に渡り図書館のサービス等研究をしていただき、こちらの方もそれを元に政策を考えていくというところで協力関係に入っております。

(委員) アンケートはより良くするためのもので、公表するものですので、改善したという結果を出さないといけません。今回のアンケートに関しては、ホームページの改善という話をしていただきましたので、一つ結果が出ていると思います。中央大学さんとの共同研究もその結果、どのように活かしたかということまで、やはり市民に伝えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(会長) 続きまして「(6) 報告事項6 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画」についてです。これについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局) それでは「第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画について」資料に沿って、ご説明いたします。
A3判の資料6-①「概要版 第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画」をご覧ください。本事業実施計画は、令和元年度に策定した「第4次読書のまち八王子推進計画」に基づき、コロナ禍における「新しい生活様式」やポストコロナ時代を見据えた重点施策と新たな取

組を明確化させることで、図書館事業を計画的に展開していくことを目的としています。令和2年度～4年度を取組に掲載した前期事業実施計画が今年度末で終了することから、事業の進捗状況を把握したうえで、令和5年度・6年度を取組に掲載する後期事業実施計画を策定します。本日は、事業実施計画の素案を報告いたしますので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。

まずは「2 図書館サービスをめぐる状況の変化」についてご説明いたします。新型コロナウイルス感染症の影響下で、令和2年度は図書館への来館者数や資料の貸出数が大きく落ち込んでいましたが、令和3年度は来館者数、貸出数ともに回復傾向にあります。しかしながら、利用登録者数は依然低迷しています。一方で、電子書籍サービスは令和2年度以降、貸出数・閲覧数ともに利用が大幅に増加しており、対面での感染リスクを心配せず、読書を楽しめるサービスとして市民の利用が進んでいる状況がうかがえます。令和2年度に図書館で実施した「市民の読書環境等に関する緊急アンケート」では、コロナ禍の中で市民が今後図書館に望むサービスとして「自動貸出返却機の設置」や「WEBサービスの充実」などが多く回答に上がりました。また、八王子市と中央大学の共同研究によりこのアンケートの自由回答欄の分析を行った結果、重要度が高い単語として「電子書籍」が上がるなど、市民の関心が高い状況がうかがえます。前期事業実施計画では、「新しい生活様式」に沿った取組として、非来館型・出張型サービスの充実を掲げ、電子書籍・電子雑誌などオンラインサービスを拡充したほか、ブックスタート等のイベントを活用した出張型利用者登録やパークライブラリーの開催を開始しました。

ポストコロナ時代の新たな日常と、持続可能な社会を形成していくためには、今後ますますデジタル技術の活用が重要となります。こうした状況に対応するため、令和4年度に策定された「八王子市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画」において、図書館では「図書館機能のデジタル化の推進」と「電子図書館の推進」を掲げており、関連事業を計画的に推進することとしています。

以上を踏まえ、「3 計画進行における重点項目」になりますが、本計画では次の3つを重点項目として決めました。1点目が「来館型サービスの質的向上」です。世代や目的に応じたニーズを捉えながら、感染症対策を講じながらイベント等を行うとともに、地域の情報拠点として、合理的かつ効率的に図書館運営を実施していきます。

2点目が「非来館型・出張型サービスの充実」です。「新しい生活様式」に沿った身近な読書環境の整備に向けて、市民ニーズが高い非来館型・出張型サービスを引き続き拡大していきます。

3点目が「デジタル技術を活用した図書館サービスの向上」です。デジタル技術を活用した市民の利便性の向上や多様な読書環境の充実を図るため、図書館機能のデジタル化と電子図書館を推進していきます。

続きまして、「4 重点施策」並びに資料6—③「第4次読書のまち八王子推進計画に基づく令和5・6年度事業実施計画（体系）」をご覧ください。3つの重点項目を踏まえ、本計画では各施策に基づく具体的な取組を定めました。資料6—③は、施策ごとの取組を掲載した計画体系となっています。今回はこの中から新規・充実した取組が含まれる重点施策をいくつか抜粋してご説明します。まず、乳幼児の読書活動支援として、「出張型利用者登録」ではブックスタート等のイベントを活用した利用者登録の機会を増やし、乳幼児やその保護者の利用を促進します。

また、非来館型サービスの充実に向けて、新たに「オンライン利用者登録」を実施します。これは図書館に来館せずに利用者登録ができるよう、従来の郵送による登録に加え、オンライン申請による登録を検討するものです。

さらに、デジタル技術を活用した図書館サービスの向上に向けて、「小中学校と連携した電子図書館」を推進します。これは文部科学省が推進しているGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人につき1台が配備されているGIGAスクール端末を使用し、朝読書等で電子書籍を活用できるようにするものです。生涯学習関連事業評価の中でも、「学校と連携し、子ども達が電子書籍を活用できる環境づくりをしてほしい」といったご意見をいただきましたが、電子書籍市場が急速に普及し、読み放題パックなど、児童書のコンテンツが充実してきたことから、図書館システムの改修を行い、令和5年度から4月から実施します。また、利用者のプライバシー保護や感染症対策としての接触減、窓口業務の効率化のため、図書館に「セルフ貸出機」の導入を検討します。

続いて「5 指標の検討」について、社会状況の変化によって図書館の来館者数や貸出数は減少しており、現在回復傾向にはあるものの、第4次計画で指標としている「図書館の実利用者率」や「市民1人あたりの貸出数」は影響をまぬがれない状況にあります。一方で、電子書籍等の利用実績は伸びていることから、次回計画策定時には電子書籍の貸出数など非来館型サービスの利用を考慮した指標に見直しを図ることを考えています。

最後に「6 計画の進行管理」について、本計画は新型コロナウイルスの感染状況を見据えながら、毎年度、各取組の数値分析を行い、ローリングを実施していきます。

(会長) ありがとうございます。ただ今、事務局から説明がありました。ご意見やご質問は、ありますでしょうか。

(委員) 最初に書いてあるようにコロナの関係で（低迷していた）登録者が大分回復してきたという話がありました。依然として令和3年度低迷していると書いてありますが、その原因はなんでしょうか。

(会長) それにつきましては図書館でも話し合いがございましたか。

(図書館課長) 大分回復はしていますが、まだコロナ前の状況まで回復していません。私どもも話し合いの中では電子書籍を始め、インターネットを活用したサービスをいろいろ広げていて非来館型の数は急激に伸びている状況ですので、そういったことが1つと、出張型サービスでパークライブラリーとって、公園や古本まつりといった地域のイベントに出向いて、そこで登録ができたり、読み聞かせをしたりしていきまして、そういった館内だけでなく、図書館外のサービス等も行っていくことが大切で、またそれが求められていると思っており、そのような点かと分析をしているところです。

(会長) それにつきまして何かご意見ございますか。

(委員) 小学校の学校運営協議会委員をやっていて、その学校は読書量を向上させようと、様々な工夫をしています。例えば借りた冊数によって、グラフがどんどん上がっていくようなものなど。よく言われますが、読んだ内容について感想を聞くと、かえって子どもは本を読まない。借りた冊数で、競い合わせようみたいなことを言っていました。学校も工夫していますが、あまり効果が上がらないと聞きました。やはり本離れ・読書離れの傾向が子どもにあって、目に触れるものがたくさんあり、わざわざ書物を開かなくてもいいような傾向が影響しているのではないかと考えます。私は学校で、子どもに本を読ませたいと思うのであれば、まず大人が読みなさいと。それを子どもは見ていますよといったことを保護者によく言った覚えがあるのですが、その辺はどうかと思ひまして。

(図書館課長) 確かに大人も子どもも読書離れの傾向は進んでいると思ひますが、先ほどのタブレットやスマートフォンで見られる電子書籍などと合わせて、ハイブリッドというのでしょうか。その場の状況に合わせて、いつでも、どこでも、読書につながれるようにしていきたいと思ひます。

(会長) 難しいところですね。学校教育だけの問題ではなく、社会あるいは家庭の中で、読書というのがどう捉えられているか。その結果として、図書館がどう活かされていくのかということが重要になってくるのだらうと思ひます。これもぜひ、図書館内部でもそうですが、我々の中でも今後一度議論をしていただけるとよろしいかと思ひます。

(委員) 今、気になったのは傾向として回復しているが、登録者数が伸びてないということですね。だから、新規に登録する人たち、今まで登録していた人たちが行けるようになったからということで皆さん図書館に戻っているが、データを見てないからわからないですが、やはり子どもの少子化、学校としては図書館に登録してもらったり、読書を推進しようとしているのですが、子どもの数そのものがまず減ってきているということですね。

やはり大人が本を読まないのではないかなと。どこの層が一番登録していないのかとか、それこそ中央大学の共同研究でここがターゲットになりそうとか、そういった戦略的なものを提示してもらえるといいのかなと思いました。層が分かればやり方も出てくるだろうと思います。その人たちにフィットするようなアプローチの仕方は出てくるのかなと思います。

(図書館課長) 貴重なご意見ありがとうございます。今、ブックスタートという健診時に赤ちゃんのところに本を持っていく事業に合わせて出張型の登録を始めまして、その層の登録者数がすごく伸びまして、同じようにこういった調査をもとにこちらから出向いて登録を伸ばすような努力をいろんな年代にもしていきたいと思います。

(会長) 本を読むというのはある程度癖みたいなのところもありまして、小さいうちからずっと積み重ねてくると読書ということに対しては、興味を持ってもらえるのでしょうか。その層をどう広げていくのかということは、これからの大きな課題だろうと思います。ぜひ議論の機会を作っていただければと思います。他にご意見、ご質問はございますか。

(委員) 登録者数の話が出ていましたが、学校の朝読書で読めるようになる電子書籍はすごいと思って聞いていました。これはとても画期的だと思います。朝読書は多くの学校で取り組んでいます、子どもが本を持ってこないことが多い。その辺にある本を適当にとって 15 分をただ過ごすというような時間になっているのですが、それをひとりひとりのタブレットで計画的に自分の読みたい本を読めるということであれば、家に帰ってまた読めるということになります。なおかつそれは記録、ログとして残りますから、子どもは読書カードをなくすこともありますが、タブレットの中にログが残っていくということも大事なことでと思います。学校単位で子ども達に、登録をお願いするというのはいいのではないかなと思いました、いかがでしょうか。

(会長) 大変前向きなご意見をありがとうございます。学校単位で登録するとなると、やはり学校教育部との調整が必要ですか。

(図書館課長) 地域の近隣の学校などでまとめて、見学もかねて学校単位で登録している学校もあります。今回電子書籍につきましては、学校図書館で使っている ID を活用して見られるようにしようと思っています。委員がおっしゃったように、比較的図書館に近い学校などはカードを作ることを行っていますが、もう少し広げられればと思います。

(会長) 今後の課題ということでよろしいでしょうか。

(図書館課長) 何年生かになって持っていない子がいたら作るとか、考えていきたいと思います。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 電子書籍化に関しては初めて聞きました。 そんな話が進んでいることにとても驚いています。 私は上川口小なので、川口図書館に2年生の子どもたちは全員が見学に行き、カードの登録をしています。 結局その後続きません。 子ども達から自分で図書館に行っているという話は全く聞きません。 電子書籍化に関しては、初めて聞いたことですから、そんな凄いことが、来年から始めるつもりで準備されていることを、校長会でも知りませんでした。 ぜひ一日でも早くそういうことをやっていただきたいと思っています。 教員も協力して、子ども達におすすめの紹介を書いて、ひとりひとりが「〇〇先生のおすすめの本」という冊子を毎年読書週間の度に作っています。 努力して読書を促していますが、やはり本は自分から取りに行くという作業の部分もあるので、デジタル化に関してはぜひ良かったら試験的に使ってくださいというくらい一番にやりたいと思っています。

(図書館課長) 3月になりましたら校長会に報告する予定であります。 きちんと周知を図ってまいりますので、利用していただけたらと思います。

(会長) あと一月ぐらいでしたら、オープンにするということですね。

(図書館課長) 3月の校長会でお知らせすることを予定しています。

(委員) 二つあります。 一つは、先ほどからの話で、電子書籍などの非来館型のサービスが充実していくというのはとても良いことだと思いますが、やはり来館して新しい本に出会うということも大事だと思っています。 また、例えば司書さんにレファレンスしていただくというような経験も非常に大事なことだと思っていますので、来館型サービスの充実も忘れないでいただきたいと思っています。 もう一つは、新しい取組として「八王子の八冊」というのがありますよね。 これはとても良い取組で、これからも続けてほしいと思います。 これは大学生向けだと思いますが、どのぐらい借りられたのでしょうか。 あるいは、またこの本をこの企画のために多少多めに配架したということはあるのでしょうか。

(図書館課長) まず来館型のサービスで、紙の本もちろん、司書のレファレンスなどもしっかりと充実を図っていきたいと思っています。 質的にも向上して行きたいと考えます。「八王子の八冊」ですが、こちらの事業は今年初めて、学習支援課と連携して試行的に実施しました。 冊数も学習支援課の

協力を得ながら多くの館で見られるように購入いたしました。利用も今調べましたら、予約も今どちらの本も入っているような状況ですごく借りられています。

(図書館企画調整担当課長) まずホームページに QR コードで飛んでいただくかたちになりますが、アクセス件数が約 500 件程度ございました。実際に貸し出された冊数が八冊トータルで 350 回程度。今現在予約が 100 件以上になります。

(会長) 数としてはまだ少ないでしょうが、これから生き残っていくというふうに理解をしてよろしいでしょうか。広げていっていただければと思います。よろしいですか。

(委員) ありがとうございます。ぜひ続けてもらいたいです。また、20 歳だけでなく、30 代や 40 代など各年代でも、おすすめの八冊というのをやってもいいのではないかと思います。

(委員) 先ほどの電子書籍化の話で、いずれ校長会で連絡するという話ですが、幼稚園協会の方もぜひお願いしたいと思いました。保育園、幼稚園で子どもがというよりは、保育士さんが毎日たくさん読み聞かせをしますので、そういう時にいつも買っていると幼稚園が本だらけになってしまいます。そういう意味で役に立つので、ぜひ幼稚園協会の方にもおろしてください。

(会長) ありがとうございます。今後の大きな課題だと思しますので、どうぞお願いいたします。

(委員) このデジタル技術を活用したサービスの向上は、素晴らしいと思いますが、どうやったら利用者が増えるかということに関して、上の年代に働きかけてもあまり効果がないと思います。子どもたちは、小さい時に本が好きになったら、それはもうずっと続きますので、今の子ども達に本を好きになってもらって、どんどん活用してもらおうという。そこに目をかけるのが一番早道だと思う。川口では小学校で図書館に行って利用者カードを作るという、それはすばらしい取組だと思いますが、本当はもっとぜひ図書館に行けないところの子どもたちにもやってほしいと思います。そして、やはりどんなに楽しいのかということ子どもたちに実感させてあげないとその次に続きません。楽しさが分かればどんどん読みますから。今中学校の図書館にボランティアに行っていますが、いくら司書さんが工夫していろんな新しい本を入れてくれても、図書館に少しも来てくれない、借りてくれないとおっしゃいます。でも紹介しなければ、そもそも図書室に来ない子どもたちに「借りて」と言ったり、「こんな本が入りました」とチラシを配布しても、読ま

ないと思います。学校では昼休みに色々な放送をしていますね。ぜひ来年は本の紹介をしていこうと、今提案しているところです。学校で司書さんがそのような取組をされているそうで、1回させてもらおうと、それが恒例になって続いていくとは思いますが。ぜひそういういい取組をいろんなところでPRしていただいて、全校でできるといいなと思います。せめて読書週間だけでも、中身の内容の紹介をさせてもらえれば。そのみなみ野の取組では、それをやった明るる日には、学校図書館の来場者が増えるそうです。

(会長) 他にご意見ご質問はございますか。

(委員) 直接関係はないと思いますが、この重点施策は積極的かつ意欲的で、とても良い施策だと思います。進めていただきたいと思います。ただ、図書館の機能として居場所ということが今とても大きな問題だと思います。重点施策に入れるかどうかは別として、居場所というのは子どもにとってだけじゃなくて、例えば高齢者であったり、仕事をしている方がほっとする場所であったりする居場所という機能があると私は思っています。そういう居場所であれば、そこで本に出会うチャンスが出てくるのかなということもあるので、その施設的なものに加えて、図書館の職員さんたちの心のバリアフリーができてないと、それはなかなか難しいことかなと思います。施策を進めるにあたって、居場所機能があるということを皆さんで認識して進めていただくとうれしいなと思います。

(会長) ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

(副会長) 今の話にも関わりますが、実は八王子の図書館は、すごく認知症の方に優しい取組として、全国的にも注目をされています。高齢者へのサービスの文脈の中で特に言及がないようですが。高齢者施設への話がありますが、実績のある取組であり、入れ込んでもいいのではないかと思います。もう一点は、今回の取組の中で、子どもたちの中でも、特に高校生の不読率が高いということが全国的にも課題で、おそらく八王子でも同じではないかと思います。オンラインでの利用登録や、スマホの利用カード、こういった取組は若い世代にいい取組なのではないかと思うのですが、ただ取り組んでも先ほど話題に上がった電子書籍と一緒に、「知っているけど利用しない」という状況にならないように、ぜひ高校とか大学の図書館とも連携して、広報、PRしていただけるといいのではないかと思います。

(図書館課長) ありがとうございます。まず認知症の関係ですが、認知症サポーターキャラバンという事業がありまして、2月25日に賞をいただけることになりました。今いろいろ進めておりますので、確かに認知症のことも盛り込みたいと思います。あと中学生に図書館に来ていただけないのは、本

当に大きな課題だと思っていまして、先ほどのご意見にもあったように、居場所としての役割が大変重要になると思っておりますので、行きやすい環境づくりを図書館みんなで考えて、いろいろな人が居心地のいい場所になるようにしていきたいと思っております。

(会長) これからの施策だろうと思っておりますので、ご期待をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(委員) 一つはやはりスマホカードというのがそうなのかもしれないですけど、子ども達にとっても大学生にとっても、一般の方々にとっても、スマホを使うということが決め手なのかなと。

もう一つは居場所とか出ていましたけども、新しい図書館の機能としての交流拠点というか。人々を結び付ける場としての図書館という、その位置づけをしっかりとさせていただくといいのかなと思いました。

(会長) ありがとうございます。時間がだいぶ経過をして参りましたが、もしご意見等ございましたら、事務局の方にメール等していただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは続きまして、報告事項(7) 市民センター図書館の休館日につきまして、ご説明をお願いいたします。

(事務局) 市民センター図書館の休館日についてご説明いたします。本件は現在、毎月第2、第4月曜日を休館日とする八王子市由木中央市民センター図書館外4つの市民センターに併設された図書館について、休日を除く全ての月曜日を休館日とすることで開館スケジュールを平易にし、運営の効率化を行うものです。

市民センター図書館は地域の読書支援の重要な拠点として機能しているところであり、現在は、市民センターの館内整理日に合わせ、第2、第4月曜日を休館日としていますが、利用者の動向データからも月曜日の利用が最も少ないことが判明しております。また今年度の八王子市図書館サービスアンケート調査においても、市民センター図書館で得られた回答では、「よく利用する曜日」の設問に対し「月曜日」の回答が最も少なく、「特に決まっていない」との回答が最も高いものでした。月曜日が恒常的な利用につながりにくい傾向が見られます。一方で図書館の非来館型サービスはコロナ禍を契機として飛躍的な発展を遂げており、今後も新たなサービス開始を予定しています。資料裏面をご覧ください。DX、出張、一部図書館機能の拡張など、様々な手法で図書館と利用者との距離を近づける取組を拡充し、これまで生活圏内に図書館がなかった市民の方にも気軽に利用できる環境を整備していきます。新しい開館スケジュールは令和5年4月から開始予定です。今回の変更については、市民や利用者の皆様に丁寧に周知して参ります。

また、各市民センター図書館の入口に、自由に手に取り持ち帰ることができる図書館のリサイクル本コーナーを設置するなど、市民の読書環境を維持するとともに、電子書籍や電子雑誌などのPRを更に強化し、DXの促進を図って参ります。市域の広い本市において、対面型を重視していたこれまでの図書館の運営バランスを見直し、利用者に最も影響の少ない形で休館日を整理することにより、そのリソースをオンラインなど含めた多様な読書支援の充実と継続につなげて参ります。

(会長) 何かご意見等はございますか。今まで隔週であったものを、週1回休みを作る。それは一番利用者の少ない時という形で。その力というか余力と申しますか、それを新たなものへ振り向けていただける。こういう御理解をしていただければ、よろしいのだろうと思っております。

(委員) ハッピーマンデーの祝日になる日は。

(図書館課長) 開館します。

(委員) それは開館で(休館日が)翌日火曜日になるという話ではないですか。

(図書館分館担当課長) 祝休日に関しては開館になります。今まで第2、第4月曜日が休館であったところ、毎週月曜日が休みになるので、年間25日ほど(休館日が)増えるところですが、5日程度の祝休日がございますので、そのときは開館になります。

(会長) これからハッピーマンデーで月曜日が祭日のケースが多くなるのだろうと思っておりますが、大変でしょうがぜひよろしくお願ひいたします。本日予定をしております議題は以上でございますが、続きまして「(8) その他」といたしまして参考資料による内容につきまして図書館課からのご説明をお願いいたします。

(図書館課長) 資料「八王子の八冊」は先ほどご紹介させていただいたものです。見ていただければと思っております。

次に本のPOPコンテストなのですが、審査に委員の方にも加わっていただきまして、入賞作品が決まりました。図書館はもちろんなのですが、市内の書店でも実際に本と一緒に展示してもらったりして、大変好評です。市内の書店で飾っていただけて子どもたちが読んでほしい本を主体的に薦めるといったいい取組ができていると思っております。(最優秀作品4点をお見せする)

(会長) ありがとうございます。できるだけたくさん色々なところに貼っ

ていただくということが、市民の方の目に触れる大きな元になるだろうと思いますので。さらに今後貼る場所の、拡充・拡大をご検討いただければと思います。他によろしいでしょうか。

(図書館課長) 2月1日からスマートフォンで利用券を表示させて貸出できるサービスが始まり、DX化の一步になったと思っております。利用券を持っていなくても表示させて貸出ができるという新しいサービスが2月1日から始まりましたので、ぜひ使っていただければと思います。

(委員) 広報はされているのですか。

(図書館課長) 「広報はちおうじ」やホームページなどに掲載しています。また、タウンニュースや東京新聞、読売新聞などいくつかの新聞にも取り上げていただきましたが、もっと広げていきたいと思えます。

(会長) 委員が見たことないくらいですから、もっとPRをお願いします。大勢の方に知っていただくことは大変重要だろうと思えます。本日、予定していました案件は以上になりますが(8) その他として、何かございますか。他にないようですので、3の「その他」となります。事務局、お願いいたします。

(事務局) 次回開催日程は未定です。改めてお知らせします。

(会長) 以上をもちまして本日の審議会は終了とさせていただきます。長時間ありがとうございました。